

<抗血栓剤の服用が肺癌手術に及ぼす影響に関する研究>

肺がんの手術は医学の進歩により安全性が高まり、高齢者の患者さんに対しても適応を広げる傾向にあります。しかしこれらの患者さんの中には、動脈硬化などにより血管の病気を持ち、その治療として抗血栓剤を服用している場合があります。川崎医科大学附属病院で2004年4月から2009年3月までの5年間に手術を受けた肺がん患者さんのデータを再検討して（これを後ろ向き試験といいます）、手術時の年齢・手術の方法や出血量、手術後の合併症などの項目を、抗血栓剤を服用していない患者さんと比較します。このことにより、抗血栓剤がどのような合併症を起こすか等の予測できる要因がわかれば、よりきめ細かな治療に役立てることが出来ます。この研究は川崎医科大学の倫理委員会の審査・承認（承認番号 545）を得ています。この研究に対する説明を御希望の方は、川崎医科大学附属病院胸部心臓血管外科ホームページから電子メール、または川崎医科大学附属病院代表(086-462-1111) から胸部心臓血管外科教室(内線25517) まで連絡をお願いいたします。【担当者：清水克彦】